



9 環境教育

1 環境教育の現況と課題

環境教育は、人間と環境とのかかわりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会の創造に主体的に参画できる人の育成を目指すものです。

今日では、学校・地域・NPO・企業・行政による環境教育の取組が活性化しています。特に、各主体が協働して行う身近な地域の特性を活かした学習が進み、体験型学習や地球規模の視野に立った学習も広がりつつあります。学校では、体験を重視し身近な環境や地域に眼を向ける環境教育が、「総合的な学習の時間」や各教科等で取り組まれています。また、企業においても、環境マネジメントの視点から環境教育に取り組んでいるところもあります。市町村でも、生涯学習講座等で環境教育や指導者育成等を行っており、ボランティア活動・NPO活動等地域の行動へと広がりつつあります。

県では、これら各主体の環境教育・環境学習をさらに進め、「持続可能な社会」を実現していくための施策を展開しています。

2 環境教育に関する県の取組

1 環境情報の提供と相談対応の推進【環境計画課】

■ かながわ環境活動支援コーナー（愛称：かながわエコBOX）の活動

県では、環境団体等の活動を支援し、環境分野に関する相談、情報提供機能を充実強化するため、横浜駅西口の「かながわ県民センター」9階に、「かながわ環境活動支援コーナー（愛称：かながわエコBOX）」を設置し、「NPO法人かながわアジェンダ推進センター」と協働して運営しています。

このコーナーは、地球温暖化防止活動推進員や環境団体等の活動拠点であるとともに、地球温暖化、環境教育など環境分野全般の相談や活動支援、パートナーシップによる取組をコーディネートする窓口としての業務を担っています。また、ホームページを活用した情報提供も行っています。

県民はもとより、企業、NPO、学校などにも気軽に活用していただくことで、「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10トライ」の「環」が広がり、身近な環境配慮活動が進むことを期待しています。

かながわ環境活動支援コーナー（愛称：かながわエコBOX）の概要

- (1) 場所：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター9階
- (2) 電話：045-321-7453(直通)
- (3) E-mail: agendacorner@kccca.jp
- (4) 機能：環境団体等の活動拠点機能、環境分野の情報提供・相談、普及啓発、情報交換・相互交流機能
- (5) 取り扱い情報：①「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10トライ」全般、②マイエコ10宣言受付、③地球温暖化防止活動、④環境教育、⑤環境NGO・NPO関係、⑥その他環境分野全般
- (6) 対象者層：県民、企業、NPO、学校、市町村等、県内全域のあらゆる主体を対象としますが、特に、県民、企業、NPOを重点対象としています。
- (7) 運営：県とNPO法人（かながわアジェンダ推進センター）との協働により運営。
- (8) その他：環境に関するイベントや環境活動に対する助成金など、環境に関する様々な情報をホームページから発信します。



「かながわエコBOX」

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f70237/>

「神奈川県地球温暖化防止活動推進センター
（NPO法人かながわアジェンダ推進センター）」

<http://www.kccca.jp/>

2 地域における環境教育の推進【環境計画課、環境科学センター】

■ こどもエコクラブへの支援

「こどもエコクラブ」は、子どもたちが主体的に環境学習や環境保全に関する活動を行い、人間と環境のかかわりについて幅広く関心と理解を深めるための経験を積み重ねながら、環境を大切に思う心を育成することを目的に、平成7年6月に環境省の呼びかけでスタートした事業です。

全国の幼児から高校生まで誰でも参加でき、仲間と活動を支える1人以上の大人（サポーター）で構成されています。

各クラブは、メンバーの興味・関心に基づき、自ら活動内容を決めて自主的に行う活動（エコロジカルあくしょん）や自主的に行う活動をより楽しく、豊かなものにするために、全国事務局でデザインした全国のクラブの共通の学習活動（エコロジカルとれーにんぐ）を行っています。

▲表2-9-1 県内クラブ数及び会員数の状況

市町村名	登録クラブ数	登録人数	サポーター人数
横浜市	12 (11)	154 (174)	35 (33)
川崎市	6 (7)	73 (69)	39 (38)
相模原市	7 (43)	52 (96)	19 (73)
横須賀市	4 (4)	66 (68)	25 (25)
鎌倉市	1 (1)	45 (46)	8 (7)
藤沢市	5 (4)	168 (185)	100 (100)
小田原市	1 (1)	79 (89)	94 (35)
茅ヶ崎市	10 (3)	30 (23)	17 (7)
厚木市	3 (1)	104 (2)	22 (1)
大和市	1 (1)	20 (38)	5 (5)
南足柄市	1 (1)	3 (3)	2 (2)
綾瀬市	1 (0)	15 (0)	4 (0)
合計	52 (77)	809 (793)	370 (326)

※ 平成27年度末の登録数、()内は平成26年度末の登録数

■ 環境インターンシップの推進

県では、県内にキャンパスをもつ大学の大学生や大学院生を対象に、環境配慮に取り組む企業における職業体験を通じて、環境保全及び環境問題の解決に必要な意欲及び実践的能力を有する人材を育成する環境インターンシップ事業を行っています。平成27年度は、16大学42名の学生を企業12社に派遣しました。

■ 環境教育・環境活動を実践する人材の育成

県では、環境教育・環境学習による理解と認識を深めるため、環境科学センターにおいて、講座や教室を開催しています。平成27年度は、地域で環境教育や環境活動を実践する人材を育成するための人材育成講座として「環境学習リーダー養成講座（受講者：40名）」、「環境活動実践講座（受講者：18名）」及び「スキルアップ講座（受講者：77名）」等を開催しました。

3 学校における環境教育の推進【子ども教育支援課、高校教育課】

■ 各教科等における環境教育の実施

学校教育においては、「総合的な学習の時間」をはじめ、各教科等、学校の教育活動全体を通じてさまざまな角度から環境教育を推進しています。

具体的には、幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において、幼児・児童・生徒の発達の段階に応じ、人々の活動と環境とのかかわりなどについて、体験を交えたさまざまな学習活動を工夫・実践することにより、子どもたちが環境について理解を深め、環境や環境問題に関心をもつとともに、環境を大切にし、環境保全に配慮した行動がとれるよう努めています。

とりわけ、「総合的な学習の時間」では、それぞれの地域や学校の特色を生かし、学校周辺の自然観察や環境保全活動、大気や水質の調査、稲作や野菜作りなどの栽培活動、海岸や公園などの美化活動、ビオトープ作りや生物の調査活動などを通して、問題解決的な学習を重視した多様な教育実践を展開しています。

さらに、県立高校においては、全県的な取組みとして、環境問題解決に関するレポートを募集し、表彰を行う「エコライフ・コンクール」の開催などを通して、高校生の環境問題に対する意識の高揚を図っています。

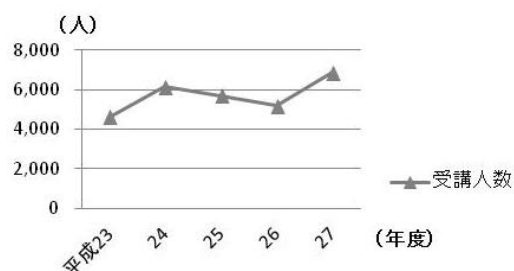
4 環境教育を支援するしくみづくり【環境計画課】

■ 環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～*

県では、学校教育を通じて環境・エネルギー等の理解を深め、「自ら考え行動する人」を育成するため、環境・エネルギー等に関して豊富な知識・経験を有する県内の企業・団体等みなさんに、小・中学校、高校等で実験等を交えた体験型の授業を実施していただく「環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～」を実施しています。

平成 27 年度は、78 校の小・中学校、高校等で体験型の授業を実施しました。

* 平成 25 年度に「新エネルギー・省エネルギー学校派遣事業」から改称



▲図2-9-1 NPO・企業との協働による環境・エネルギー学校派遣事業の受講者数

■ 環境学習映像教材「かながわ環境スクール～見て、考えて、行動しよう！

私たちの未来のために～」

県では、世界規模の環境問題について、生活に身近なことが影響していることに「気づき」、私たちができることは何か「考える」きっかけとなることを目的として、学校や地域で使用できる環境学習映像教材「かながわ環境スクール～見て、考えて、行動しよう！私たちの未来のために～」を作成しました。

本教材は環境計画課ホームページ等で公開するほか、DVDの貸出やダビングサービスを行い、学校や地域における環境教育を推進します。



コラム 酒匂川生き物調査隊

大井町立大井小学校は、足柄平野の南西部酒匂川沿いの水田地帯にあり、学区には酒匂川が流れ、川沿いの水田地帯、丘陵部の畑作地帯、山林地帯と自然環境には大変恵まれている学校です。

<実践の内容>

4年生の総合的な学習の時間で「酒匂川」について取り上げ、7月に学年全体4クラスで酒匂川の観察に行きました。酒匂川に直接入るのが初めてだという子どもたちが思いの外多く、はじめは水に濡れないように足を運んでいた子どもたちも、やがては潜って水の中の様子を観察したりするようになりました。

この時の観察をもとに各学級で話し合い、1組は酒匂川のよさ・すばらしさをアピールする図鑑作り。2組はつかまえた魚を飼って「酒匂川水族館」。3組は魚のほか植物や川原の石にも興味を向け、「酒匂川博物館」。4組は川に飛来する野鳥や、昔いた生き物へも関心を向け活動しました。12月、学級でのそれぞれの活動をまとめ、学習発表会で発表しました。川にいる水生昆虫の模型を作って舞台上で動きや特徴を説明するなど、各学級工夫を凝らしての発表会になりました。



酒匂川の観察

コラム 酒匂川の水質調査

小田原市立白鷗中学校総合文化部科学班と小田原市立白山中学校科学パソコン部は学校の近くを流れる酒匂川の水質調査を月に一度行っています。

白鷗中学校（酒匂川河口付近）						白山中学校（酒匂川河口から約2.5km上流）					
月日	天気	気温 (°C)	水温 (°C)	pH	DO (ppm)	月日	天気	気温 (°C)	水温 (°C)	pH	DO (ppm)
5/14	晴れ	17	21	7.2	4.80	5/21	晴れ	22.9	19.5	6.9	1.42
6/2	晴れ	23	22	6.8	5.39	6/16	曇り	24.5	18.3	7.7	8.37
7/6	晴れ	24	22	7.2	5.40	7/15	晴れ	32.2	23.0	7.5	7.68
8/3	晴れ	32	25	7.2	4.64	8/11	晴れ	28.8	16.9	8.2	9.65
9/30	晴れ	21	22	7.2	7.52	9/14	曇り	21.5	20.3	7.2	3.87

<小田原市立白鷗中学校> 溶存酸素量（DO）は基本的には気温が上がると低くなるものですが、5月から8月はかなり低い数値になっています。溶存酸素量が低くなっている原因を考えると、解析精度を上げることが今後の課題です。

<小田原市立白山中学校> 水質検査を通して、地域の環境の変化を肌で感じることができます。水の行方を知り、「環境に優しい生活」とは具体的にどうすればよいか考えながら活動しています。

コラム 環境シンポジウム

高校生の環境意識を高め、環境保全やよりよい環境の創造のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育成することや、各学校における環境教育を実践・推進する指導者の育成を図ることを目的として開催してきました。

平成27年度「第10回環境シンポジウム」（平成28年1月26日開催 会場 国際言語文化アカデミア）

○高校生のエコライフ・コンクールの表彰

「身近な自然環境の調査から考えるエコライフ」で最優秀賞を受賞した
県立横浜栄高等学校を表彰しました。

○環境教育の取組について（事例発表・研究協議）

環境教育推進校における環境教育の取組についての生徒による発表・研究協議を行いました。

○その他

国立教育政策研究所教育課程研究センター

基礎研究部 統括研究官 五島 政一 氏による基調講演等を行いました。



高校生による発表